

現代のこども事情

時代の流れの中で子どもたちを取り巻く環境も随分変わってきました。



外遊びの減少・集団遊びの減少

【昔】鬼ごっこ、木登り等の外遊びが中心。グループ（年齢、性別の違った仲間）遊びの中で、喜び、熱中、成功、失敗が原動力となっており、からだ、精神、創造性、判断力、社会性が育てられました。

【今】テレビゲーム、コンピューターゲーム等の室内でかつ少人数（同性、同年齢）での遊びが台頭。リセットして何度もやり直すことのできるゲームは悔しさや痛みを一瞬で消し去ります。時間や内容も大人がコントロールする必要が出てきます。

家庭環境の変化・しつけの低下

【昔】兄弟も多く縦の組織がはっきりした大家族でした。全員での食事の機会を通じて、家庭内でも日常的に競争や協調性が必要とされていました。こどものしつけに対する親の責任も重いものでした。

【今】少子化によって、兄弟が少なく、個室が与えられる等、家族の間での刺激が少なくなりました。ひとりのこどもに対する親の期待が大きかったり、大人の基準でこどもに接するため過保護になったり、逆に放任になってしまうケースも出てきました。

強制されない自由なスポーツの減少

【昔】子どもたちが空き地や広場で野球をやったり鬼ごっこをしていました。そこでは強制のない自由な遊びとしてのスポーツが展開されていました。

【今】空き地や広場の減少と交通事情の変化によって、自由な遊びの延長のスポーツからクラブでのプログラム化されたスポーツに変わってきました。子どもたちの自由な発想でのスポーツから、常に大人の目にさらされている中でコーチングによるスポーツへと変わってきました。

他人への無関心・教育力の低下

【昔】社会的意識が高く、年代を超えた交流やつながりがありました。近所の大人が、誤ったこどもの行動に対して愛情を持って叱るケースも存在していました。

【今】（諸事情がありますが）大人が他人のこどもへ注意したり愛情を持って叱る場面がなくなりました。逆に他人のこどもに無関心な大人も増えてきました。こどもにとっても、規律やモラルをしっかりと指導される場が減りました。